

高血圧ケア市場の次なる突破口：

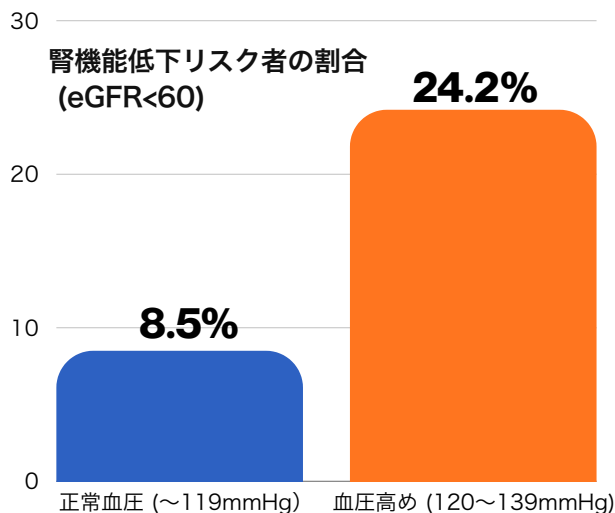
「血圧×腎機能×塩分」トリプルアプローチの差別化戦略



一般公開データから紐解く減塩ケアの盲点と、研究・開発に向けた複合アプローチの可能性

血圧区分別 推定GFR低下リスク者の割合

▶地域住民コホートデータ分析により、血圧が高めの方ほど、腎機能低下 (eGFR<60) のリスクを併発している割合が高いことが示されています。

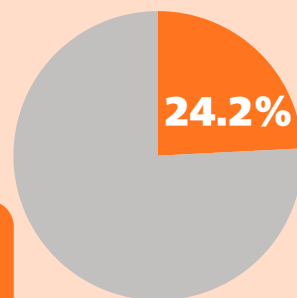


出典: 厚生労働省NDB等の地域住民コホートデータによる研究
※eGFR: 血清クレアチニン値などから算出する腎機能の指標

血圧高めの層では、

約 **4** 人に **1** 人が

腎機能低下リスク (eGFR<60) を併発



血圧が高め (収縮期120-139mmHg) の方は、正常血圧の方と比べて、腎機能低下リスク (eGFR<60) を併発している割合が**約3倍高い**ことが明らかになりました。

減塩意識×血圧区分による腎障害オッズ比

▶高塩分摂取かつ減塩無関心層において、血圧上昇に伴う腎負荷オッズ比が顕著に増大することが報告されています。

		血圧区分(mmHg)			
		正常 (~119)	120~129	130~139	140+
減塩意識	低	1.00	1.45	2.10	3.85
	高	0.90	1.15	1.52	2.30

オッズ比 低 高

※オッズ比: 基準 (意識血圧正常・減塩意識低) と比較した腎障害オッズの倍率を示す。

▶オッズ比とは？

特定の条件 (ここでは減塩意識と血圧区分) における「腎障害の起こりやすさ」を、基準と比較した倍率で示す指標です。

例

減塩意識が低い人で血圧が140mmHg以上の場合

腎障害のオッズは基準の

3.85倍

血圧が高く、減塩意識が低い人ほど、腎機能低下のリスクが高まる傾向が明確に示されています。

1. 公開データ・市場実態が示す「3つの盲点」

一般公開データや市場動向から、現在の血圧ケア市場が抱える課題を整理します。

領域・課題テーマ	市場実態・課題の背景	オルトメディコのアプローチ
対象領域の潜在リスク	血圧高め層の多くは無症状のまま、「潜在的な腎機能低下(eGFR 低下)」のリスクを抱えている。 ¹⁾	Go トーロクモニターデータベースにある、血液検査値(クレアチニン・eGFR)で、医療未受診のまま放置されている未病リスク層をダイレクトに抽出。
単一訴求の限界 (市場の飽和)	「血圧を下げる」「減塩」といった単一ヘルスクレーム製品が溢れており、既存品との明確な差別化が難しくなっている。	「血圧×腎機能×塩分」などの多角アプローチ(複合ヘルスクレーム)を見据えた、高付加価値な商品企画・コンセプト設計を支援。
自己申告(アンケート)の限界	アンケート等の自己申告では「減塩できている」「健康だ」と回答しがちな無自覚層が多く、意識調査では実態を補縛できない。	自己申告に頼らず、CAND(食事記録)×バイオマーカーの「客観数値」により、真の「高塩分摂取×腎負担」層を厳格に特定。

2. Go トーロクで検証する差別化の仮説

「3つの盲点」を起点に、ゴー・トーロクの実測データを活用した差別化の可能性を検証します。

検証領域	活用するデータ	差別化仮説・開発のねらい
無自覚高リスク層の特定	血液検査値(eGFR・クレアチニン) + 血圧測定値	「血圧高め」かつ医療未受診のまま「潜在的な腎機能低下(eGFR 低下)」を併発している無自覚な未病層を確実にスクリーニング・抽出できるか。
食習慣実態との紐付け	CAND 食事調査データ (推定量・Na 算定値)	単に血圧が高いだけでなく、実際に「塩分過剰摂取」である層を、自己申告ではなく精密栄養計算(CAND)により客観的に証明・特定できるか。

検証領域	活用するデータ	差別化仮説・開発のねらい
複合訴求への拡張	血圧高め×腎機能低下×高塩分摂取層 (3 大客観指標の重複)	単なる「減塩・血圧ケア」ではなく、「余分な塩分の排出サポート×腎負担軽減」を組み合わせた **複合ケア(ダブル・トリプル訴求)**が強い競合優位性を生むか。

出典

1) 厚生労働省 NDB 等の地域住民コホートデータによる研究

外食や濃い味付けの食事を楽しむ機会が増える中で、単に「減塩・減塩」と我慢を強いるアプローチや、単一の血圧ケアだけでは、既存の血圧対策に限界を感じている生活者へ届きにくくなっています。

飽和する市場で重要になるのは、血圧管理に加え『余分な塩分の排出サポート』や『腎機能ケア』を組み合わせた複合的な価値提案です。自己申告のアンケートでは捉えきれないこうした無自覚リスク層も、Go トーロクが保有する血液データなどの客観的データであれば正確に特定できます。

数千万円規模の「ヒト臨床試験」へ進む前に、すでに条件を満たした特定モニター群に対して「プレ調査(受容性・体感検証)」を行うこと。それこそが、開発投資のリスクを最小限に抑え、商品企画・研究開発・営業が確固たる勝算を持って本試験へと進むための確実な第一歩となります。

お客さまの声.com では、対象者分布の確認、アンケート、座談会、試作品評価、短期の予備調査まで、商品開発段階に応じた検証をご提案します。

下記の連絡先、または右の QR コードからお問い合わせくださいませ。

TEL:03-3812-0620TEL:03-3812-0620

